

とやま舞台芸術祭2022

総合プロデューサー：舟本 幸人

富山県オペラ協会10周年記念
第6回オペラ公演

安念 千重子プロデュース

オペラ

ジョルジュ・ビゼー作曲

Carmen

カルメン

全4幕

日本語上演

(宗近 昭 訳による富山県オペラ協会版)

令和4(2022)年

11月6日(日) 13:15開場 14:00開演
富山市芸術文化ホール [オーバード・ホール]

[主催] とやま舞台芸術祭実行委員会

[共催] 一般社団法人富山県芸術文化協会、富山県、富山市、高岡市、南砺市、公益財団法人富山県文化振興財団、北日本新聞社

[後援] 公益財団法人富山市民文化事業団、富山県オペラ協会、富山県オーケストラ連盟、富山県洋舞協会、富山県舞台技術研究会、富山新聞社、北日本放送、富山テレビ放送、チューリップテレビ、一般社団法人富山県ケーブルテレビ協議会、とやまソフトセンター

安念 千重子プロデュース

オペラ カルメン ジョルジュ・ビゼー作曲 全4幕

日本語上演

(宗近 昭 訳による富山県オペラ協会版)

《指揮》坂本 和彦 《演出》中村 敬一

《演奏》富山シティフィルハーモニー管弦楽団

《舞踊》富山県洋舞協会（島田純子フラメンコ教室 ALEGRIA）

《合唱》富山県オペラ協会合唱団 《児童合唱》富山少年少女合唱団

キャスト

カルメン 森山 京子 (客演)	フラスキータ 碓井 絵美
ホセ 森清 篤実	メルセデス 山本 千鶴
ミカエラ 渡邊 万貴	ツニガ 松山 いくお (客演)
エスカミーリョ 渡辺 洋輔	ダンカイロ 小林 大祐
モラレス 黒崎 隆憲	レメンダード 庄司 慧士

スタッフ

《音楽スタッフ》

副指揮・合唱指揮 | 川崎 嘉昭
 コレペティトア | 金森 敏子
 稽古ピアノ | 清水 香里
 内田 陽子
 中川 歩美 他

《舞台スタッフ》

舞台美術 | 鈴木 俊朗、佐藤 みどり
 照明 | 渡部 佳子
 映像 | 荒井 雄貴
 舞台監督 | 大澤 裕 (ザ・スタッフ)
 演出助手 | 西浦 由佳里、荒木 晶子
 大道具 | 東宝舞台、金沢舞台
 照明操作 | セットアップ
 衣裳 | 東京衣裳
 ヘアメイク | 吉池アサノ
 映像 | アライ音楽企画
 小道具・履物 | ザ・スタッフ
 衣裳スタッフ協力 | 加藤 興志子、佐々木 奈緒子
 ヘアメイク助手 | 長谷河 恵子、後坊 寿恵、渋谷 史
 メイク協力 | 富山県理容美容専門学校

《制作スタッフ》

串田 淑子、丸山 美由紀、
 伊東 康孝、護摩堂 若、
 金川 睦美、高木 悦子

《制作》安念 千重子

祝 辞



富山県知事 新田 八朗

このたび、とやま舞台芸術祭2022 オペラ公演「カルメン」が開催されますことを心からお祝い申し上げます。

「とやま舞台芸術祭」では、これまでも、優れた舞台芸術の創造と交流を目指して、県内芸術文化団体等による数多くの素晴らしい舞台が繰り広げられてきました。

本日のオペラ公演は、富山県オペラ協会の10周年記念公演です。ジョルジュ・ビゼーが作曲した情熱的で華やかな愛と死の運命のドラマ「カルメン」は、世界で最も有名なオペラの一つであり、描かれた人間模様が時代を超えて愛され続けています。

オペラは、音楽に演劇や絵画の要素も加わり、歌唱、演奏、舞台美術、照明などが一体となって、一つの舞台を創りあげる総合芸術と言われています。富山県オペラ協会会長である安念千重子先生のプロデュースにより上演される本公演は、必ずやご来場の皆様を魅了し、深い感銘を与えるものと確信しています。

ご来場の皆様には、本公演で大きな感動に包まれたひとときを、明日への力としていただき、皆様それぞれのウェルビーイング（真の幸せ）の向上に繋げていただければ幸いです。

結びに、開催に尽力されました一般社団法人富山県芸術文化協会をはじめ関係の皆様へ深く敬意を表しますとともに、本公演のご盛況と皆様の今後ますますのご健勝、ご活躍、ご多幸をお祈り申し上げます。

ご挨拶



(一社) 富山県芸術文化協会会長

木下 晶

芸術文化を愛する方々全てにとって、今回のオペラ「カルメン」開催には、格別の感慨があると存じます。一昨年からの新型コロナウイルス禍により、2回の延期を経て2年ぶりとなる公演の場に身をおくことができるのは、まことに有難いことです。

富山県オペラ協会は2010年の設立以来、着実な歩みを重ね、2020年に創立10周年を迎えられました。これを記念する第6回のオペラ公演、安念千重子プロデュースオペラ「カルメン」全4幕は、多くの方々の芸術文化への思いの全てが結集したものと言えます。

演奏者には、ベテランから若手まで、実力と実績ある多彩な方々が揃いました。また、主人公を支える富山県オペラ協会合唱団は設立7年を迎え、本公演への思いを高めています。これに加えてフラメンコ舞踊が加わり、実に見ごたえのある楽しいひとときが期待されます。

本日の公演には、パンデミックや世界的な戦乱に左右されず、これからの芸術文化を展開してゆく力強い意志を感じます。多くの方々に、富山のオペラの進展、飛躍の力を示すことで、希望と勇気をもたらすことを期待します。

終わりに、本日の公演に当たってご協力いただいた皆さまや関係者の方々のご尽力に、こころから感謝申し上げます。

ご挨拶

富山県オペラ協会名誉会長

浅岡 節夫



富山県オペラ協会の公演にご来場いただき、心から感謝申し上げます。

オーバード・ホールは、三面半舞台、二千名以上を収容し五階席まで備えた日本でも数少ないオペラ劇場であり、このような素晴らしい施設が富山にあることは、本当に誇るべきことです。ここでの第一回公演の演目は「魔笛」、第二回は「こうもり」でした。第三回となる今回は、1875年にパリで初演されたフランスのオペラで有名な「カルメン」です。

タバコ工場で働くジプシーのカルメンと、竜騎兵の伍長ドン・ホセの悲恋話ですが、恋心に燃え、狂い、果ては破滅へと向かうストーリーは、ちょうど同じ時期に東京で初演された歌舞伎「籠釣瓶花街酔醒（かごつるべさとのえいざめ）」に通じるものがあり、田舎商人佐野次郎左衛門が吉原の花魁八ッ橋に思いを寄せ、最後に命まで奪ってしまうラストシーンなど、とても似ていると言えます。親しみやすいメロディで音楽ファンに人気のカルメンですが、演劇としても十分に楽しんでいただけたらと思います。

オペラは、音楽だけでなく、演劇、文学、舞踊、美術の要素を含んだ総合舞台芸術です。音と空間と時間を操り、観衆に深い感動をもたらすオペラを継続的に上演していくことは、芸術文化活動全体の発展に大きく貢献するものと確信しています。

本日の公演のために、指揮者 坂本和彦氏、演出家 中村敬一氏と、キャスト、スタッフ諸氏が多大な熱意を注いでくれたことに、心から敬意と感謝を表します。

今日の公演は本当に楽しみです。皆さまも心ゆくまでお楽しみください。

ご挨拶

富山県オペラ協会会長

安念 千重子



皆様、本日はご来場いただきありがとうございます。長引くコロナ感染症のため二度も延期を余儀なくされた本公演、漸く開幕の日を迎えました。芸術など不要不急と社会から追いやられた3年間は私たちにとって暗黒の時期でしたが、それを乗り越えて本日に辿り着けたのは、時代を経ても変わらぬ芸術への憧れを関係者一同が共有出来た事だと思っています。

富山県オペラ協会創立10周年の記念公演として選んだこの作品は、創立当時の夢でした。最近の「オペラ」公演は原語、字幕スーパー付が主流です。しかし富山ではオペラ公演が物語の解説や説明ではなく、演ずる歌い手が、自分たちの言葉で直接伝えることでお客様の想像力を刺激し、観客を含めたホール全体でこの素晴らしい作品を共有出来たらとの思いでオペラ公演は日本語と定めています。先人が遺してくれた芸術作品を大切に後世に伝えねばとの想いで、まずは「芸術文化の地産地消」を目標に公演を続けております。

昭和20年、原爆を期に敗戦、焦土と化した日本に（現在のウクライナの状況と重なります）まもなく誕生したのが二期会、やがて労音の組織が日本全国に広がりました。（人類はどん底に落ちた時ほど、芸術を必要とするものようです）昭和30年頃から「カルメン」は労音により日本各地で開催され、当時のキャストは川崎静子、柴田陸、伊藤京子、大橋国一のゴールデンコンビ。（宗近 昭 訳）当時大学1、2年生だった私は、二期会合唱団のエキストラとして参加していたことが懐かしい思い出です。

以来30年ほど、この訳は日本中で使われていましたが、近年は色々な方の解説や訳等が出回り、歌手にとっては難儀な事ですが、敢えて今回はこの訳を使用します。どうぞお楽しみください。

オペラの魅力を地域に…

富山発の「カルメン」に期待する

中島 恭一

（オペラ愛好者、富山国際大学顧問・前学長）



オペラはドラマ（劇）を音楽によって展開する芸術で、17世紀初頭にイタリアで誕生してから4百年余になる。当初は王侯・貴族や富裕な市民層など聴衆も限られたが、18世紀から19世紀にかけてのヨーロッパでの産業革命や市民革命を通して市民社会化が進行するにつれ、一般民衆に開かれた娯楽として発展する。18世紀にはヘンデル、モーツァルトなど、19世紀に入ってロッシニ、ワーグナー、ヴェルディ、プッチーニなどによりオペラ作曲の全盛時代を迎え、フランスのビゼーもその一人である。この時代のオペラは、神話、民話、史実、小説・戯曲などを素材としたものが多く、現在でも主要な演目として上演され続けている。

オペラの上演では、ドラマの台本に沿って作曲された楽譜（スコア）を元に、指揮者が統率する管弦楽の演奏、歌手の独唱や重唱、合唱による音楽表現と共にドラマの進行に合わせた演技が繰り広げられ、時にはバレエも加わって、豪華な舞台が演出される。まさにドラマと音楽とが融合した総合舞台芸術である。

私が40年前に留学したドイツでは各地域の主要都市には歌劇場があり、連日のようにオペラが上演されており、オペラ鑑賞は地域住民の娯楽として定着している感があった。私も休日などを利用して鑑賞に出かけたが、眼前の舞台上での「歌って演じる」歌手の競演と管弦楽が織りなす音楽ドラマの迫力に魅了され、帰国後もすっかりオペラファンになった。

日本でも、経済発展と共に、国内のオペラ団体による公演や海外の歌劇場の引越し公演など、オペラに接する機会が増えてきた。今日では、全国各地に地方オペラ団体が結成され、富山でも2010年に富山県オペラ協会が発足し、オペラの魅力を地域に広げるために活動を続けている。

今回、コロナ禍での2年の延期を乗り越えて、オペラの地産地消を目指す富山県オペラ協会が総力をあげて上演する、富山発の「カルメン」に期待が高まる。

「カルメン」はビゼーの旋律美溢れる音楽づくりと華麗で劇的緊張度の高いドラマ展開と相俟って、世界中で頻繁に上演され人気絶大なオペラである。日本でも「音楽の友」誌が実施している「好きなオペラ」アンケートでは、直近の2018年、2021年と2回連続で「カルメン」がモーツァルトの「魔笛」などを抜いてトップとなっている。

前奏曲では、「闘牛士の行進曲」で始まり主要な旋律の提示により全曲の波乱を想起させる。幕が開くと、「ハバネラ」「闘牛士の歌」「ジプシーの歌」「花の歌」などの魅惑的な歌をはじめ、独唱、重唱、合唱、管弦楽にと親しみのある旋律が次々と現れ聴衆を飽きさせない。純情な許嫁ミカエラを思いつつも、自由奔放で妖艶な「魔性の女」カルメンの魅力に引き込まれていくドン・ホセ、しかしやがてカルメンは闘牛士エスカミーリョに気変わりする。最後は闘牛場前で逆上したドン・ホセがカルメンを刺し殺す悲劇的な結末へと向かう迫真のフィナーレは圧巻である。

今回の上演では、このオペラの魅力がどう表現されるか、興味は尽きない。

Story 
あらすじ

【第1幕】 1830年頃のスペイン。セヴィリアにあるタバコ工場前の広場。

工場を警備するモラレスたち兵士が退屈そうにしている。伍長ホセのいなすけであるミカエラが田舎からホセを訪ねてくるが、兵士たちからかわれてしまう。やがて上官のツニガと共にホセが警備の任につくと、休憩時間を知らせる鐘が鳴り、女工たちが工場から出てくる。それを待ち受ける男たちの関心の的はカルメンである。カルメンは居並ぶ男たちを尻目に、常識にとらわれない奔放な恋の歌『恋は野の鳥（ハバネラ）』を歌う。彼女はただ一人自分に無関心で、生真面目なホセに興味を持つと、ホセに花を投げつける。ホセはカルメンが投げつけた花を拾い、その妖艶な魅力に心が揺らいでいるとミカエラが登場し、ホセの母親からの便りを渡して立ち去る。突然工場が騒がしくなり、喧嘩の張本人カルメンが引き立てられて来る。カルメンはホセに連行されるが、逃がしてくれたらなじみの酒場で酒を飲もうと『セギディーリャ』を歌いホセを誘惑する。ホセは彼女の魅力に負けて縄をほどいてしまう。カルメンは高笑いを残して逃亡する。

【第2幕】 リリヤス・パステアの酒場

前幕より約1ヶ月あと。カルメンはメルセデス、フラスキータとともに『ジブシーの歌』を歌い踊る。そこへ人気闘牛士エスカミーリョが現れ、『闘牛士の歌』を勇ましく歌って一同は杯をあげる。エスカミーリョはカルメンに目を留め、カルメンに言い寄る。やがて客たちが去ると、密輸団の頭目ダンカイロとレメンダードが現れ、『うまい話がある』とカルメンたちを仕事に誘うが、カルメンはホセを訪ねてくるからとそれを断る。カルメンを逃がした罪で投獄され、やっと自由の身になったホセが登場。カルメンはホセのために歌い踊るが、帰営の時間を気にするホセをなじる。ホセは『花の歌』を歌い、いかに自分がカルメンを愛しているかを切々と訴える。そこへ運悪く上官のツニガが現れて、鉢合わせしたホセと決闘となる。ツニガは密輸団に捕らえられ、ホセは仕方なく彼らの仲間となる。

【第3幕】 岩山にある密輸団の野営地

ひと休みしている密輸業者たち。カルメンとホセの仲は険悪なものとなっている。フラスキータとメルセデスがやっていたカード占いにカルメンが加わると、カルメンがめくるカードは何度やっても「死」を予言する。そこにエスカミーリョがカルメンを訪ねてやって来るが、カルメンを巡ってホセと争い決闘となる。カルメンは二人の間に割って入り、エスカミーリョを助ける。エスカミーリョは、「皆さんをセヴィリアの闘牛に招待しましょう。」と言って去っていく。密輸団が発発しようとしたとき、レメンダードがミカエラを見つける。彼女から母が死の際にあることを聞かされたホセは、カルメンへの思いを残しつつ、ミカエラと山を下りていく。

【第4幕】 セヴィリアの闘牛場前

前幕から1ヶ月後。闘牛場前の広場は人々で賑わっている。闘牛士たちの行列がやって来て、カルメンと恋人同士となったエスカミーリョも闘牛場へと入っていく。フラスキータがカルメンに「ホセが闘牛場に来ている。あんたの命を狙っているわ。」と忠告するが、カルメンはそれを鼻で笑う。カルメンの前に立ちはだかるホセ。ホセはカルメンに、もう一度自分とやり直してほしいと懇願するが、カルメンは断る。カルメンが闘牛場へ向かおうとすると、ホセは、ナイフを取り出して「闘牛場に行くというなら、ここでお前を殺す。」と脅迫する。しかしカルメンは動じない。そしてホセからもらった指輪を外して「カルメンは自由に生きて、自由に死ぬのよ。」と叫び、彼に投げつける。激昂したホセは、カルメンを刺し殺す。ホセは「ああ、カルメン。俺の愛するカルメン・・・。」と慟哭する。

【参考文献】 新国立劇場 名作オペラ50鑑賞入門 監修 公益財団法人新国立劇場運営財団 世界文化社 2012
オペラ対訳ライブラリー ビゼー カルメン 安藤元雄 訳 音楽之友社 2000
藤原歌劇団公演プログラム 財団法人日本オペラ振興会 1985

オペラ「カルメン」
…協会10周年おめでとうございます

指揮 坂本 和彦



10周年記念公演となります「カルメン」、本来でしたら2020年に上演する予定でしたが、コロナによる社会状況により延期(2020年)、延期(2021年)になり、2022年漸く、やっと、待ちに待って上演することが出来ました。

キャストの皆さんは勿論、合唱団の皆さんも、三年間ほどの長〜い、長〜い練習を重ねてきたことになりませんが、これほどブランクが空きますと、本来ならば意気込み、テンションが下がるはずが、いざ今年の練習が始まりましたら、ブランクなど感じさせない「熱」を感じ、私はその時思いました、「皆さんは本当にオペラが好きなんだ」、そして「カルメンというオペラが好きなんだ」と…

毎回の練習でも、やっと「カルメン」を上演できる喜びが、キャスト、合唱団の方々からも感じ取られ、このオペラに足を運んでくださる会場の皆様に、きっと楽しんで頂けるのではと…。三年余りのブランクは辛いものがあったと思いますが、今回は特に熱いオペラ「カルメン」を、熱い思いを全開にしてお届けできると思います。

「フィガロの結婚」「ヘンゼルとグレーテル」「魔笛」「こうもり」、そして今回の「カルメン」、協会の皆さんとご一緒させて頂きました。10周年を迎えました今、主催者をはじめ、協会の皆様方のご努力と、ご苦労は大変だったと思いますが、富山県制作のオペラが、県民の皆様方から、末永く愛され、親しまれ、これからも上演されて行かれますことを、心から願っています…一人の富山県オペラ協会のファンとしても…

「とやまカルメン」の誕生

～新しく生まれるものと受け継がれるもの～

演出 中村 敬一



『ハバネラ』『闘牛士の歌』など、オペラファンならずとも耳にしたことがある名曲が並び、世界中の劇場のレパートリーとなっている『カルメン』はビゼーが亡くなる年、36歳の作品。しかし彼の生前にはヒットせず死後に人気を高めていったそうです。初演はパリのオペラ・コミック座。現地語で娯楽性の高い作品が上演される劇場では、血なまぐさい話の展開に反発もあったのかも知れません。その後ビゼーのもとには台詞をレチタティーヴォに改めたグランド・オペラ版のウィーンでの改作上演が依頼されましたが、持病による体調不良から静養中に心臓発作を起こして急死してしまいます。皮肉にも死後、弟子によって加筆され完成したグランド・オペラ版の『カルメン』が世界中のオペラハウスで大人気となり、現代に至っています。

タイトルロールの「カルメン」はファム・ファタール（運命の女〜男を墮落させる女）の代表的な役柄。音符を歌うだけでは、その魅力が表現されることはなく、歌い手自身から溢れ出る魅力が求められる難しい役。今回はこの役を何回も色々なプロダクションで歌ってきた「カルメン歌い」の森山京子さんが演じてくれます。しかも、森山さんの不在の折は、とやま舞台芸術祭2022の安念千重子プロデューサーが、思わず「カルメン」を歌い演じ始めてくださいました。彼女も「カルメン歌い」その血が騒ぐのでしょう。この二人のファム・ファタール〜カルメンの魅力に触発されて富山の歌い手たちもそれぞれの役の中で、悩み、刺激を受け、大きく成長してくれました。とやまの『カルメン』をお楽しみ頂きましょう。

オペラは学校で教えられるものではありません。「舞台」でしか学ぶことの出来ない何かを稽古場で掴んで、今日は富山の皆さんに届けることができると思います。



《指揮》 坂本 和彦

藤原歌劇団・日本オペラ協会指揮者。公益財団法人日本オペラ振興会評議員。岐阜県かかみがはら未来文化財団芸術監督。日本指揮者協会事務局長及び幹事。一般社団法人「日本文化創成協会」理事。一般社団法人「日本賢人会議所」理事。富山県オペラ協会相談役。NPO法人「音楽で日本の笑顔を」顧問。三石精一氏に師事。チューリッヒ（スイス）に留学。またチューリッヒ音楽院学長、チューリッヒ歌劇場指揮者F・ライトナー氏、及びF・エーゲルマン氏に師事。同地歌劇場にて四年半学ぶ間に、ミュンヘンにてW・サヴァリッシュ氏、ザルツブルグにて、H・カラヤン、O・スイトナー氏の指導を受ける。1994年には、ベルリンフィルハーモニー管弦楽団、ベルリンドイツ交響楽団にて研鑽。帰国後は、藤原歌劇団、日本オペラ協会をはじめ、富山県オペラ協会、四国二期会、鹿児島オペラ協会、栃木県民オペラ、群馬オペラ協会、長崎オペラ協会、等、地方オペラ団体に数多く客演。また2010年11月、皇居にて3万人の国民をご招待した中で行われました、天皇陛下（現上皇）即位20年、ご成婚50年をお祝いするにあたり作曲された「太陽の国」（東京都交響楽団、EXILE歌唱）の御前演奏の指揮者を務めた。2013年、豊島区より文化功労賞を受賞、2015年10月1日、東京都より文化功労賞を受賞。2016年11月、富山県芸術文化協会より功労者表彰を受賞。



《演出》 中村 敬一

武蔵野音楽大学同大学院で声楽を専攻。鈴木敬介、栗山昌良、三谷礼二、西澤敬一の演出助手で研鑽を積み、文化庁派遣在外研修員としてウィーン国立歌劇場にて研修。リメイク版「フィガロの結婚」で高い評価、二期会「三部作」、東京室内歌劇場「ヒロシマのオルフェ」、日生劇場「笠地蔵・北風と太陽」でジローオペラ新人賞受賞。新国立劇場デビューの「沈黙」が高く評価。ザ・カレッジ・オペラハウス「ヒロシマのオルフェ」で大阪舞台芸術奨励賞受賞。オペラの台本も手がけ、松井和彦「笠地蔵」「走れメロス」新倉健「ボラーノの広場」、窓（ウィンドウズ）、前田佳世子「どんぐりと山猫」がある。国立音楽大学・洗足学園音楽大学・大阪音楽大学客員教授。



《フラスキータ》 碓井 絵美

富山県立呉羽高等学校普通科音楽コース、昭和音楽大学音楽学部声楽科卒業。同大学院音楽部音楽研究科オペラ専攻、日本オペラ振興会オペラ歌手育成部オペラマスターコース修了。声楽を串田淑子、清水まり、上原正敏、永吉伴子、コレベティトゥア北村晶子の各氏に師事。平成26年富山県芸術文化協会奨励賞、第2回美歌コンクール聴衆賞を受賞。文化庁人材育成オペラ「修道女アンジェリカ」、富山県オペラ協会オペラ公演「魔笛」に出演。現在、藤原歌劇団準団員。富山県オペラ協会芸術会員。富山県音楽協会会員。現在、富山市立岩瀬中学校教諭。



《メルセデス》 山本 千鶴

富山県砺波市出身。武蔵野音楽大学音楽学部声楽科卒業。『フィガロの結婚』『修道女アンジェリカ』『ヘンゼルとグレーテル』『カルメン』『椿姫』『蝶々夫人』等オペラに出演の他、交響詩「めざめる羽」はばたく四季 新作初演ソリストを務め東京フィルハーモニー交響楽団と共演、ルーマニア首都ブカレストのアテネ音楽堂にてジョルジュ・エネスク・フィラルモニカと共演。ハイドン「グレートオルガンミサ」、モーツァルト「レクイエム」等のアルトソリストを務めるなど、各種コンサートに出演。またソロだけでなく合唱でも各団体のオペラ、コンサート等に参加している。平成26年度富山県芸術文化協会奨励賞受賞。藤原歌劇団準団員。富山県オペラ協会芸術会員。

Cast Profile
キャストプロフィール



《カルメン》 森山 京子 (客演)

沖縄石垣島出身。国立音楽大学卒業。文化庁派遣芸術家在外研修員としてイタリア・ミラノに留学。ドイツ・ライプツィヒ歌劇場と2シーズン契約。藤原歌劇団公演、新国立劇場公演、東京芸術劇場公演等への出演多数。他にNHKニューイヤーオペラコンサート、NHK FM コンサートなど。"カルメン"、ロッシェニオペラのヒロイン役や現代オペラ"軍人たち"のラ・ローシュ伯爵夫人、"ムツェンスクのマクベス夫人"ソニエートカ、"イエヌファ"コステルニチカ、"マハゴニー市の興亡"ペグビッグ役を歌い評価を得た。他に井上道義指揮、野田秀樹演出"フィガロの結婚"〜庭師は見た"まるちえ里奈など。藤原歌劇団団員、日本オペラ協会会員、日本演奏連盟会員。



《ホセ》 森清 篤実

国立音楽大学声楽学科卒業。野中匡雄氏に師事。ベートーヴェン作曲「第九交響曲」、ヘンデル作曲「メサイア」、モーツァルト作曲の「戴冠ミサ」「孤児院ミサ」のソリストを務める。オペラではモーツァルト作曲「魔笛」のタミーノ、モノスタス、「コシ・ファン・トゥッテ」のフェランド、プッチーニ作曲「ジャンニ・スキッキ」のリヌッチョ、ヴェルディ作曲「アイーダ」の使者、ヨハン・シュトラウス作曲「こうもり」のプリント等を務める。平成27年、29年にリサイタルを開催。平成22年富山県芸術文化協会奨励賞受賞。富山県オペラ協会理事・芸術会員。富山県声楽家協会代表幹事。国立音楽大学富山同調会副会長。魚津「ホール・デ・コーラス」、射水「絵本コロ・アルカディア」指揮者。富山市立八尾中学校教諭。



《モラレス》 黒崎 隆憲

国立音楽大学音楽学部声楽学科卒業。40年間の学校音楽教育活動のかたわら、声楽家として演奏活動にも取り組む。これまでに「第九」「合唱幻想曲（ベートーヴェン）」「レクイエム」「戴冠ミサ（モーツァルト）」「メサイア（ヘンデル）」「カルミナ・ブラーナ（オルフ）」等のソリストを務める。オペラでは、「月の世界」「フィガロの結婚」「魔笛」「コシ・ファン・トゥッテ」「ドン・ジョヴァンニ」「アマールと夜の訪問者」「ヘンゼルとグレーテル」「蝶々夫人」「ジャンニ・スキッキ」「ラ・ボエーム」「こうもり」「手古奈」「あまんじゃくとうりこひめ」等に出演。富山県立呉羽高等学校非常勤講師、富山県声楽家協会会員、富山県オペラ協会理事・芸術会員。国立音楽大学富山同調会会長。



《ツニガ》 松山 いくお (客演)

新潟県糸魚川市出身。93年イタリアのトリエステ市に国際ロータリー財団の奨学生として研修。サンジュスト寺院で聖歌隊ソリストを務める傍ら、トリエステ民謡の邦訳やM・ソフィアノープロ作曲の「エレミアの12の哀歌（世界初演）」などのコンサートで好評を博した。オペラのレパートリーでは「ジャンニ・スキッキ」の表題役、「愛の妙薬」のドゥルカマール役など軽妙なことから「椿姫」のジェルモン役、「外套」のミケーレ役など深みのある役どころまで幅広い。近年は演劇の出演にも意欲的に取り組んでおり、ストレート・プレイにも定評がある。代表を務めるNPO法人ミラマレ・オペラでは、役者としても十分に通用するオペラ歌手の育成を目的としてオペラ制作に携わっている。昭和音楽大学及びアニモ・プロデュース講師。



《ミカエラ》 渡邊 万貴

国立音楽大学演奏学科声楽専修歌曲ソリストコース修了。第96回ソロ・室内楽定期演奏会、2015年度卒業コンサートに出演。声楽を佐藤ひさら、串田淑子の各氏に師事。東京二期会オペラ研修所マスタークラス修了。第28回富山県青少年音楽コンクール声楽部門にて優秀賞受賞。2018年、オペレッタ「こうもり」アデーレ役でデビュー。他、東京、富山を中心にコンサートに出演。富山県オペラ協会芸術会員。



《エスカミーリョ》 渡辺 洋輔

富山県立呉羽高等学校普通科音楽コース、東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。声楽を黒崎隆憲、長谷川顯、千代崎元昭の諸氏に師事。「フィガロの結婚」アルマヴィーヴァ伯爵、「魔笛」ハバゲーノ、「こうもり」ファルケ、「アツティラ」エツィオ、「イル・トロヴァトーレ」ルーナ伯爵等でオペラに出演。その他、第九や宗教曲、合唱曲のソリストを務める。富山県オペラ協会芸術会員、東京藝術大学同声会富山県支部会員。第26回富山県新人演奏会北日本新聞社賞受賞・富山県知事賞、平成29年度富山県芸術文化協会奨励賞、第70回富山県芸術祭奨励賞受賞。現在、富山県立呉羽高等学校教諭。



《ダンカイロ》 小林 大祐

東京芸術大学声楽科首席卒業。同大学院オペラ科修了。奨学金を得てミラノへ2年間留学。オペラでは「ファルスタッフ」「ジャンニ・スキッキ」等のタイトルロールを演じる他、数多くのオペラで主要な役を演じる。第14回コンセル・マロニエ21声楽部門第一位。第九回藤沢オペラコンクール第一位。第84回日本音楽コンクール入選。第86回日本音楽コンクール第三位。第68回全国植樹記念式典において両陛下ご臨席のもと国歌独唱。北日本新聞社より芸術選奨、富山県ひとつくり財団よりとやま賞受賞。これまでに、黒崎隆憲、高橋大海、伊原直子、直野資、N.Zanini、林康子の各氏に師事。二期会会員。



《レメンダード》 庄司 慧士

小、中学校は相撲に没頭し、中学校の合唱コンクールで声楽に興味を持つ。富山県立呉羽高等学校普通科音楽コースにて本格的に声楽の勉強を始め、富山県青少年音楽コンクール青少年音楽大賞。大阪国際音楽コンクール第2位。東京藝術大学卒業時にアカンサス音楽賞・同声会賞・佐々木成子賞を受賞。黒崎隆憲、吉田浩之の両氏に師事。富山県オペラ協会芸術会員。

.....Orchestra.....

富山シティフィルハーモニー管弦楽団

団長 古井 清紀

<i>1st Violin</i>	<i>2nd Violin</i>	<i>Viola</i>	<i>Cello</i>	<i>Contrabass</i>	<i>Flute</i>	<i>Oboe</i>
大江 ひとみ 田中 緑 辻 久直 名執 純子 廣田 弘美 又場 龍大 宮本 範子	朝木 晴美 黒田 彩華 塩崎 章子 高田 遼吾 原 朝子 松下 亮 吉澤 真弓 米澤 由佳子	河原 千佳子 久保 悠希乃 澤崎 紗菜 藤井 優哉 室 志桜里	新町 栄一 館野 祥子 堀田 五月 松島 健一郎	長谷 英寿 藤島 晃彦 吉澤 克仁	摺出寺 敬子 吉澤 美和子	北岡 明 保科 浩一
<i>Clarinet</i>	<i>Fagotto</i>	<i>Horn</i>	<i>Trumpet</i>	<i>Trombone</i>	<i>Percussion</i>	<i>Harp</i>
住吉 友紀子 古川 友紀	永原 千春 松村 初美	川添 等 宅美 俊史 野崎 美保 安川 幸治	古井 清紀 塚田 瑠美	岩城 悟 大田 昭男 長倉 久喜	女川 好野 片山 康太郎 塩田 惇 野替 亜紀子 花房 清直	照田 真由美



.....Flamenco.....

富山県洋舞協会（島田純子フラメンコ教室 ALEGRIA）

射水市の Estudio EL PATIO（スタジオ エル・パティオ）を拠点とし、約80名のメンバーが所属。県内外のホール公演、イベント等に出演の他、スペイン人講師によるクラスを定期的に行なっている。2018年、第27回日本フラメンコ協会新人公演 群舞部門において奨励賞を受賞。2019年、コンクール Sevillanas Festival in Toyama バイレ生演奏部門、バイレ音源部門において優勝。2020年、射水市社会福祉協議会より表彰を受ける。2022年、現代舞踊協会選抜新人舞踊公演、本公演に出演。2022年、オーバード・ホールにて20周年記念公演を開催。



《主宰》島田 純子



斎藤 玲子 立浪 陽子 山口 麻里子 磨伊 由佳 春木 加奈 尾崎 さくら

.....Chorus.....

富山県オペラ協会合唱団

代表 護摩堂 謙一

<i>Soprano</i>	<i>Alto</i>	<i>Tenor</i>	<i>Bass</i>	助演	
上木 真弓 雄川 邦代 千先 まさ枝 田原 佳菜子 中野 多賀子 橋 日奈子	★林 美和子 廣瀬 裕美 本田 由美子 本吉 規子 森谷 一恵 吉澤 絵利奈	★奥野 知子 重松 秀子 護摩堂 若 高木 悦子	高野 夏美 戸田 圭子 永澤 美保	★井内 学 護摩堂 謙一 中野 裕 吉澤 良祐	★上田 慎一 紺屋 範雄
常田 宗孝					

★：パートリーダー



.....Chorus.....

富山少年少女合唱団

代表 廣本 浩太

和田 慧林	牧野 美月	下坂 都和子	牧野 朱莉	岡本 花野	草開 はるか	和泉 美音
廣本 歩美	草島 美穂	柴原 幸芽	三宅 真央	高橋 陽彩	佐伯 真菜	高島 心花
柴原 百恵	島川 結愛	砂田 あかり	西谷 唯那	野嶋 拓人	砂田 嶺太	林 流歌



維持会員

株式会社内山精工 米原商事株式会社 山元醸造株式会社
リードケミカル株式会社 可西舞踊研究所 大沢内科クリニック

安念 邦夫	安念ゆたか	五十嵐大霧	井上五三男	大楠 安紀	大楠 匡子	大成 勝代
大村 禎子	重松 秀子	金山 茂人	貴堂 義晴	久郷 秀男	栗谷 恭三	栗谷 良野
黒川 雅皓	酒井和佳子	里見 治美	島 美恵子	島田 修	島田 典故	高木 悦子
高松 眞	梅野 寿栄	中川 洋司	中島 恭一	夏野 華子	西野 正彬	林 攻
林 美和子	平井 岑生	舟本 幸人	細川キヨミ	松本 喜二	宗景 昭	村井 俊夫
本木 英子	山本 郁夫	横野 昭	和田 朝子			

芸術会員

赤根 純子	浅岡 節夫	安念千重子	安念 奈津	伊東 康孝	碓井 絵美	碓井 智子
内田 陽子	内山 太一	岡本麻里菜	小澤 眞琴	尾島理英子	加藤 恵	門田 宇
金川 睦美	金森 敏子	川崎 嘉昭	串田 淑子	窪田 早紀	黒川 真理	黒崎 隆憲
小林 綾乃	護摩堂謙一	護摩堂 若	近藤 洋平	酒井 雄一	坂田 茜	沢井 栄次
澤武 紀行	清水 香里	清水 慧衣	庄司 慧士	高尾 静佳	田口めぐみ	竹内 佳代
竹内 雅拳	辰巳 光子	辰巳 陽彦	谷村 清香	田原佳菜子	玉井 恵子	中沖いくこ
中川 歩美	長谷 和美	久田 潤	平井 香織	福田光太郎	松崎加代子	丸山美由紀
馬渡 彩音	水戸真美子	南 早希子	森川 有紀	森清 篤実	森田 夏海	安田 裕美
山本 千鶴	山元 三奈	山元 由起	山本有希子	横内 桂子	吉森 祐也	四津谷泰子
利田みさき	渡邊 万貴	渡辺 洋輔				

会友

五十嵐晃子	石野 雅子	笠島 和夫	笠島 睦子	桐島 秀郎	桐島有紀子	栗谷 修輔
黒田 義昭	小泉 貴義	近藤 雪子	酒井 淳子	澤山 圭子	示森 昇	正満志貴子
杉原 芳枝	千先まさ枝	高橋 睦美	武田 慎一	民谷千鶴子	豊谷 節子	中野多賀子
中野 裕	幅田 信義	林 悦子	堀田 多聞	前田 玲子	南出ゆかり	蓑口 睦子 (終身)
村口 陽子	桃野 瑞恵	山辺 美嗣	山本 壽美	吉田 康子		

池田 瑛子	上田真由美	内山 節子	岡田 京子	加藤 淳	加藤 純子	角 光則
上岸 泰子	川崎 昌博	窪田 早紀	小泉 量裕	小林 俊雄	米屋万美子	笹田 葉
佐藤 宗良	島田 明世	清田 尚登	高尾 真澄	田中 之子	田中 憲子	田中 礼子
谷井よう子	谷井 美夫	円池美枝子	土井 治美	長江登美子	畠 啓子	平田 義人
平野恵美子	保科 克則	松井 恵	源 朋子	八嶋 浩久	山田 晴子	柚木喜久子

維持会員・芸術会員・会友・オペラ協会合唱団の詳細ご案内は下記まで

【お申込み・お問合せ】 富山県オペラ協会事務局 Tel/Fax 0763-33-3497

〒939-1315 富山県砺波市太田 1346 アーベントホール内 E-mail: toyamaopera2012@gmail.com

次回公演予定

長らくコロナ感染症を乗り越え、才能豊かな新人、
中堅からベテランに至る富山県オペラ協会の人材が揃い踏み
オペラ名曲の数々をお楽しみください

ニューイヤー・オペラ・ガラコンサート Vol.12

2023年1月29日(日) 14:00 開演

富山県教育文化会館

とやま舞台芸術祭実行委員会事務局

〒930-0096 富山市舟橋北町 7-1 富山県教育文化会館(一社) 富山県芸術文化協会内

TEL 076-441-8635 (内線 123) FAX 076-442-4635 E-mail: info@pat.or.jp URL: https://www.pat.or.jp